

公開シンポジウム「ヒトの社会と愛 ～ラミダス猿人化石からわかること～」

日時:2011年2月6日(日曜日) 14:00～17:00

場所:東京大学 理学部2号館 大講堂

主催:日本学術会議(自然人類学分科会)、日本人類学会、東京大学大学院理学系研究科
生物科学専攻、東京大学総合研究博物館

共催:日本霊長類学会、日本文化人類学会

開催趣旨

自然人類学の研究の中心は、現在でも化石骨の研究である。昨年、アフリカで発見されたラミダス猿人の研究成果が一連の論文として日本の研究者を含む国際チームによって発表された。その成果には、ラミダス猿人の男女差が小さいという、人間の特徴がすでに現れていた。そこで、日本におけるラミダス猿人研究の中心である諏訪元教授にまず講演していただき、さらに男女の性差についての考察を、長谷川真理子教授(日本学術会議連携会員)が話すという形式で、数百万年にわたる人類進化を立体的に議論する機会を提供したい。

プログラム

14:00～14:05 主催者あいさつ

14:05～15:05 講演:諏訪元(東京大学総合研究博物館・教授)「ラミダス猿人化石の全容」

15:05～15:35 コメント 馬場悠男(国立科学博物館・名誉館員)、山極寿一(京都大学大学院理学研究科・教授)、中務真人(京都大学大学院理学研究科・教授)

15:35～15:50 休憩

15:50～16:30 講演:長谷川真理子(総合研究大学院大学・教授)「ヒトにおける性差:生物学と文化の交差点」

16:30～17:00 全体討論